

## 第2学年1組 音楽科学習指導案

指導者 長谷川 悦子

1 題材名 ようすを おもいうかべよう

教材名 「人形のゆめと目ざめ」「海と おひさま」「小ぎつね」

### 2 題材について

#### (1) 題材観

本題材は、学習指導要領第1学年及び第2学年の、2内容A表現(1)歌唱イ「歌詞の表す情景や気持ちを想像したり、楽曲の気分を感じ取ったりし、思いをもって歌うこと」、(2)器楽イ「楽曲の気分を感じ取り、思いをもって演奏すること」、B鑑賞ア「楽曲の気分を感じ取って聴くこと」、イ「音楽を形づくっている要素の関わり合いを感じ取って聴くこと」ウ「楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲や演奏の楽しさに気付くこと」に関する内容である。

児童はこれまで、音楽表現をするうえで必要な拍の流れ・リズム・旋律・音色に対する感覚や表現の技能などを中心に学習してきた。本題材では、音楽を想像豊かに聴いたり、思いをもって表情豊かに表現したりすることに焦点を当てて学習を進めていく。今まで学習してきたことと、強弱、速度の要素を活用して表現の工夫を考えさせ、歌詞が表す様子の違いを歌唱と表現する力を身に付けさせていきたいと思う。表現を工夫する活動を楽しむことで、歌唱や器楽で自分自身の思いを伝えようという気持ちが育つのではないかと考えた。

#### (2) 児童の実態 (男子8名、女子8名、計16名)

本学級は、16名という人数である。一人一人が元気よく、休み時間には男女関係なく共に遊び、学習中も意欲的に取り組んでいる。特別に支援を要する児童がいるが、学習に対する意欲は高い。毎朝今月の歌を歌っているが、歌詞や季節の変化を意識し、体を動かしたり、表情豊かに歌ったりする児童が多い。音楽の学習の中では、曲の情景を友達に伝えたり、一緒に工夫したりすることに苦手意識をもっている児童が多いため、単語やつぶやきを取り入れて発表するように助言しているが、意見をもった児童を中心に話し合い活動が進んでいく様子が見られる。前単元の「山のポルカ」の学習では、意見をもった数人の児童が工夫を考え、他の児童が言われた通りにプリントを書き、演奏するということがあった。そのため、今回の授業では、一人一人が意見を出せるように、意見交換の場を工夫していきたいと思う。

言葉で様子を表現することが苦手な児童も、歌詞の様子を絵に描くことで視覚的に情景をとらえることができる。友達に絵や言葉で様子を伝えたり、実際に体を動かしながら表現を工夫したりすることで、より活発に自分の思いを友達に伝える機会を作り、表現の工夫をすることの楽しさを感じさせていきたい。

#### (3) 指導観

本題材では、情景に合わせて体を動かしながら鑑賞を行ったり、歌詞の情景を自分なりに想像して、自分自身の思いをもって歌い方や演奏の仕方を工夫して表現したりする学習を進めていく。

「人形のゆめと目ざめ」は、ピアノ小品として原曲が知られているが、ここでは、曲の内容を楽しくイメージできるように、オーケストラ編曲のものを鑑賞する。自由な編成による標題音楽で、4分の3拍子による「子もりうた～人形のねむり」、4分の4拍子による「人形のゆめ～人形の目ざめ」、4分の2拍子による「人形のおどり」の3つの部分からなり、速度の変化とともに楽曲の気分が変わっていく。その様子を鑑賞し、想像したことを言葉や動作で表現していく。鑑賞の学習を通して、場面や様子の変化に合わせた歌い方の工夫のポイントとなる、〔共通事項〕の速度・強弱・拍の流れによる曲想の変化に気付かせていく。

「海とおひさま」は、1番と3番が明るい感じの歌詞であるのに対して2番はやや沈んだ感じの歌詞という、感じの違いを生かして表現が工夫できる曲なので、それらの対比を生かして表現を考えさせたい。また、時間の経過を速度や強弱へとつなげて歌い方が工夫できるので、歌詞をじっくり読んで曲想を把握し歌唱表現へとつなげていく。歌詞に込められた思いを自分なりに解釈することで、気持ちや思いを歌に込めることにつなげていく。

「小ぎつね」の原曲はドイツ民謡で、日本語の歌詞は、小ぎつねの暮らしを愛らしく描いている。秋から冬への移り変わりが物語性を感じさせる曲で、小ぎつねが出会うさまざまな場面で小ぎつねの気持ちを想像しやすい。場面の变化を速度や強弱の工夫で表し、気持ちをこめて歌ったり演奏したりするようにしたい。

### 3 題材の目標

- ・ 楽曲の気分を感じ取って、想像豊かに聴いたり、思いをもって表現したりする。
- ・ 歌詞の表す様子や気持ちを想像して、歌い方を工夫する。

### 4 題材の評価規準

関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
歌詞の内容から場面の感じの違いを思い浮かべて思いをもって歌ったり、楽曲全体にわたる気分を感じ取って聴いたりする学習に意欲的に取り組もうとしている。	歌詞の表す様子や気持ちを想像して、様子を思い浮かべたり楽曲の変化を感じ取ったりしながら、声や音の出し方を工夫し、どのように演奏するかについて自分の思いをもっている。	歌詞の表す様子や気持ちを想像しながら、声や音の出し方に気をつけて、思いをもって演奏している。	速度や強弱などに気をつけて聴き、様子を思い浮かべたり楽曲の気分の変化を感じ取ったりしながら、聴いている。

### 5 題材の指導計画及び評価計画（7時間扱い）

次	時	○学習内容・主な学習活動	学習活動における評価規準	共通事項
1次	1	○「人形のゆめとめざめ」を聴き、部分に合わせた曲の様子を想像しながら鑑賞する。	エ 速度や強弱などに気をつけて聴き、様子を思い浮かべたり楽曲の気分の変化を感じ取ったりしながら、聴いている。	音色 強弱 速度

2 次	2 ・ 3 本 時	<p>○「海とおひさま」を聴き、1番～3番で曲の様子が違うことをつかむ。</p> <p>○それぞれの場面の様子を絵で表現する。</p> <p>○1番～3番から気に入った歌詞を選び、海の様子や気持ちを考えて歌い方を工夫する。</p>	<p>ア 歌詞の内容から場面の感じの違いを思い浮かべて思いをもって歌ったり、楽曲全体にわたる気分を感じ取って聴いたりする学習に意欲的に取り組もうとしている。</p> <p>イ 歌詞の表す様子や気持ちを想像して、様子を思い浮かべ、歌い方を工夫し、どのように歌うかについて自分の思いをもっている。</p> <p>ウ 歌詞の表す様子や気持ちを想像しながら、歌い方に気をつけて、思いをもって歌っている。</p>	音色 強弱 フレーズ
3 次	4 ・ 5 ・ 6 ・ 7	<p>○「子ぎつね」を聴き、1番～3番に季節の変化の違いがあることをつかむ。</p> <p>○子ぎつねの気持ちを考えながら、楽曲の気分にあった歌い方を工夫する。</p> <p>○拍の流れにのって鍵盤楽器を使って旋律を演奏する。</p> <p>○歌詞の時と同じように、子ぎつねの気持ちになって、歌ったり演奏したりする。</p>	<p>ア 歌詞の内容から場面の感じの違いを思い浮かべて思いをもって歌ったり、楽曲全体にわたる気分を感じ取って聴いたりする学習に意欲的に取り組もうとしている。</p> <p>ウ 歌詞の表す様子や気持ちを想像しながら、声や音の出し方に気をつけて、思いをもって演奏している。</p>	音色 強弱 フレーズ  反復

## 6 本時の指導

### (1) 本時の目標

○海の様子や気持ちを考えて歌い方を工夫する。

### (2) 視点とのかかわり

<視点2>自分の思いや意図を表現するために

○音楽の素の掲示

グループでの意見交換の際に、『音楽の素』を教室に掲示する。ここでいう『音楽の素』とは、これまでの学習の中で子ども達が発見してきた、音楽を形づくっている要素や気持ちを表現する言葉などのことを言う。

グループごとに歌詞に合った表現を見つけるために、ヒントとして掲示物を活用する。それによって、自分の表現したい内容を明確にし、話し合いを深め、自分の思いを相手に伝えることにつなげていきたい。

<『音楽の素』の一例>

色 速度に関する言葉→黄色  
分 強弱に関する言葉→青色  
け 構成に関する言葉→緑色  
気持ちに関する言葉→赤色

だんだん大きく	明るい	高い
だんだん小さく	くらい	ひくい
はねるように	ゆっくり	テンポがいい

○拡大歌詞プリント

班での話し合いの際に、1番～3番の中で自分たちが表現を深めたい番号の歌詞を拡大した歌詞プリントを用意する。歌詞を読み、どのような表現で歌いたいかなどの、表現の工夫について話し合ったことを、直接書き込めるようにしておく。自分の意見を述べてから『音楽の素』と同じ色分けで歌詞プリントに書き込むというルールで活動を行い、相手に自分の思いを伝えさせる。また、歌い方の工夫だけではなく、身体表現を加えて歌うことも工夫の一つであることを伝え、より豊かに歌で表現し合うことにつなげていく。

(3) 本時の展開 (3 / 7)

学習内容と学習活動	○教師のかかわり	資料・教具
<p>1 「海とおひさま」を歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歌う姿勢と声の出し方に気を付けて、楽しく歌う。</li> </ul> <p>2 本時のめあてをつかむ。</p>	<p>○4つのポイント(足・背中・肩・頭)で声を出しやすいように声をかけ、歌うときの姿勢を意識させる。</p>	<p>・今月の歌C D</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>ようすをそうぞうしながら、海の気もちになって歌い方を考えよう。</p> </div>		<p>・前時に児童が描いた海とおひさまの絵</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時に描いた「海とおひさま」の情景を描いた絵を確認し、海とおひさまの関係や気持ち振り返る。</li> </ul>	<p>○情景を想像しやすくするために児童の描いた絵をカラーで拡大コピーしておき、掲示する。</p>	
<p>3 グループに分かれて歌詞プリントに海の気持ちを書き入れて、歌い方の工夫を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1番・2番・3番のグループに分かれて、歌詞から海の様子や気持ちを想像し、歌詞プリントに歌い方の工夫を書き込む。</li> <li>・考えたイメージに合うように、歌い方の練習をする。</li> </ul>	<p>○グループで1枚の歌詞プリントを用意し、班員の考えが書き込めるようにする。</p> <p>○工夫に迷っているグループには、音楽の素の言葉を使うよう助言する。</p> <p>☆音色・強弱</p>	<p>・歌詞プリント ・カラーの油性ペン ・音楽の素</p>
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・“うれしくて”は、元気に大きく歌いたいな。</li> <li>・“さみしくて”は、小さく歌いたいな。</li> </ul> </div>	<p>イ 歌詞の表す様子や気持ちを想像して、様子を思い浮かべ、歌い方を工夫し、どのように歌うかについて自分の思いをもっている。</p> <p>ウ 歌詞の表す様子や気持ちを想像しながら、歌い方に気をつけて、思いをもって歌っている。</p> <p>(歌詞プリントへの書き込み、練習の様子)</p>	
<p>4 グループごとに発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の始めに確認した海とおひさまの様子や気持ちが表現できているか、互いの歌を聴きあう。</li> <li>・各グループの発表を聴いた中で、ポイントとなる部分を確認する。</li> </ul>	<p>○工夫点を伝えられるように、グループの歌詞プリントを見ながら発表するように伝える。</p>	
<p>5 まとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各グループのよかったところを確認し、全員で工夫点を意識しながら1～3番まで通して歌ってみる。</li> <li>・歌い終えてみて、友達が考えた工夫のよかったところや気が付いたところを感想に書く。</li> </ul>	<p>○最後に各班の考えを合わせて歌うことを伝え、書くグループの発表を集中して聴くように声をかける。</p> <p>○それぞれの班の良さを認められるように、全体で必ず意識して歌いたい場所を確認し、班での工夫を生かして歌うようにさせる。</p>	<p>・一言感想のワークシート</p>

